



れている場合には、お互いに補完できる形で個別課題に合わせて効果的に活用されている事例については共有できると有難い。

## 2. 職場適応援助者養成研修カリキュラムの見直しについて

より実践的で、具体事例を盛り込んだ内容にする

・『企業へのアプローチと事業所における調整方法（訪問型）』の科目において、雇用企業の実情にあわせた様々なアプローチのパターンについて具体事例を挙げて検討する（例：雇用経験ゼロ・過去に失敗トラウマあり・雇用カウント偏重等）。

・『職務分析と行動観察、作業指導（共通）』の科目で、ジョブコーチが職場と協働して間接的に指導する場合のシラバスを追加し、演習で役割を分担し、交替するなどして、実践的な訓練を実施する。

・『事業所での支援方法の基礎理解（共通）』の科目に、職場適応に役立つ（支える）雇用管理制度の先進取組事例の検討も別途、含める（就業規則、人事評価制度、合理的配慮内規等）。

知識や技法の習得に留まらず、ジョブコーチとしてのパースペクティブ（ものの見方・本質の捉え方・見通しや間合いの取り方）の修養に目を向ける

・『障害特性と職業的課題』の科目では、職業的課題の要因となる障害特性と職場・生活環境の相関について総合的に考察し、診断名からではなく職場での表出事例から遡って紐解いていけるような思考力が身に付くよう事例を工夫する。

以 上